

赤穂義士絵巻のあらすじ

ろうか にんじょう

I 江戸城松の廊下の刃傷



ごしょ ししゃ とくがわつなよし ぎしき
京都御所からの使者に対し、五代将軍徳川綱吉が礼のことばを述べる儀式が行われるの
あさの ながのり きら よしなか とつせん
を前に、浅野長矩が吉良義央に突然切りかかる事件がおきます。

II 浅野長矩の切腹



よしなか けいしょう ばくふ ながのり そくじつせっぷく
切りつけられた義央は軽傷でしたが、幕府は長矩を即日切腹としました。

III 赤穂城の受け渡し



りょうち　ばくふ　へんかん
赤穂藩浅野家はとりつぶしとなり、領地は幕府に返還されました。

IV 残された浅野家家臣団の行方



しゅくん　ながのり　ろうにん　しんせき　ながひろ　はんしゅ　むか
主君の長矩を失って浪人となつた家臣たちは、親戚の浅野長広を新たな藩主として迎え、
浅野家を再興させようと幕府に掛け合いながら、仇討ちについても話し合いました。

V 吉良邸への討ち入り



げんろく
元禄 15 年 12 月 15 日 (1703 年 1 月 30 日)、吉良邸への討ち入りが決行されました。

VI 浪士たちの切腹



う
討ち入りに参加した 46 人は幕府による処分が決まるまでの間、熊本藩細川家など 4 つの
だいみょう
大名家に預けられました。そして義央の四十九日にあたる翌年 2 月 4 日に切腹を命じら
さんか
あず
ぱくふ
よしなか
しょぶん
じじゅうく
くまもとはんほそかわけ
にち
せつぶく
れました。